

頼りになるオーダーメイド型 ワンストップサービス

CSアカウンティング

会計・税務の早期化・複雑化に 高い安全性と業務品質で応える

経理・会計・税務のアウトソーサーとしては、業界のパイオニア的存在なのがCSアカウンティングだ。現在は、隣接する人事・労務に関する業務も含めてオーダーメイド型のワンストップサービスを提供。専門知識を持つ150人規模のプロフェッショナルスタッフが、連携を密に図りながら、顧客企業の高度なアウトソーシングニーズに込えている。

アウトソーシングの導入アプローチ

- 現状調査・分析** ビジネスモデル、業務の流れなどについてヒアリングを実施し、現状を把握。ヒアリングの結果に基づき、問題となっている業務プロセスを分析する。
- 運用計画策定** 問題となっている点を解決するための改善案を運用計画として策定し、提案する。
- アウトソーシング実施** 問題点を効果的に解決するため、状況に応じてカスタマイズしたアウトソーシングが提供される。
- 運用状況確認** アウトソーシング開始後に運用効果について確認し、非効率な部分がある場合には問題点を洗い出しを行う。
- 改善案の検討** 必要に応じて、マニュアルの作成など対策案を検討し、実行する。

するのにもかなりの時間と労力を要する。そんな将来のリスクヘッジ、経営基盤の安定確保のためにアウトソーシング導入が起点になるといわけだ。また、導入を機に、的確な業務評価や迅速な意思決定に役立つ、いわゆる管理会計を確立したいという経営者層も多いという。

CSアカウンティングでは、アウトソーシングの受託に当たっては、現状の経理・会計業務のプロセスを分析し、既存システムにも配慮しつつ、顧客にとって最適な運用計画を策定。ア

ウトソーシングを機に、経理業務のムダ・ムラを排除し、会計処理、税務手続きの精度を高めるシステムが構築される。

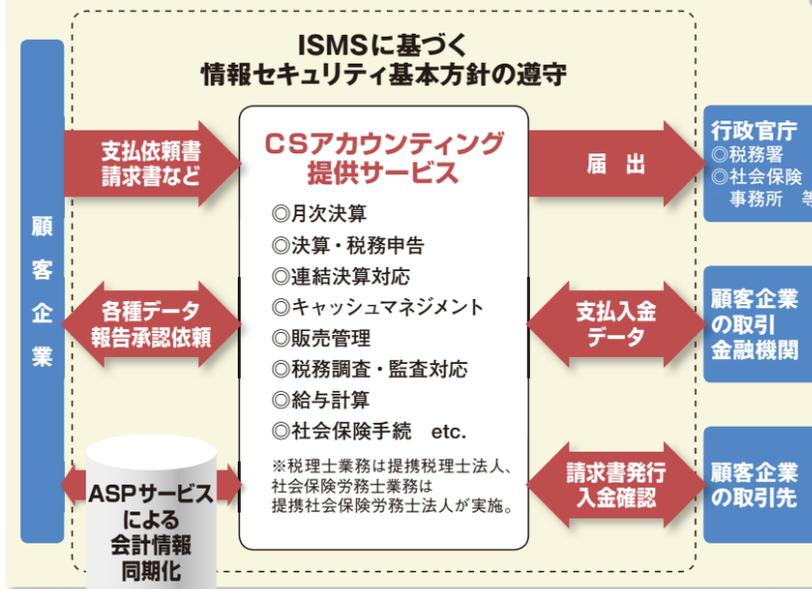
顧客に寄り添う実務の遂行と迅速な情報提供

経理や会計のアウトソーシングではセキュリティも気になるところだが、CSアカウンティングでは、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）における国際規格「ISO 27001」を業界内でもいち早く取得し、万全の体制を整えている。

また、昨今浸透してきたクラウドサービスでも同社は早くからASP（アプリケーション・サービス・プロバイダ）機能を充実させてきた。平準化された業務フローの運用や、月次決算など経理・会計情報の早期入手、リアルタイムの情報共有化など、

高い業務品質で提供されるアウトソーシングサービス

CSアカウンティングが提供するサービスは、ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）に基づいた管理方針の下で、顧客先や関係企業・機関とやりとりされる。



1 990年の設立以来、業界のパイオニアとしての地歩を築き上げてきたCSアカウンティング。同社の強みは何かと云っても、公認会計士、税理士、社会保険労務士といった約150人のプロフェッショナルスタッフが擁した人材力。独立系のアウトソーサーでは国内最大規模の陣容を誇る。

その厚みのある人材力で、大

手土産企業からその関連会社、中堅・中小企業までの多様なアウトソーシングニーズに、オーダーメイド型のワンストップサービスで込えている。

企業の経理・会計・税務のアウトソーシングに今なぜ、ワンストップサービスが重要なのか。同社専務取締役の中尾篤史氏はこう語る。

「ひと口に経理関連業務といっ

ても領域は多岐にわたります。例えば、日々の経理業務はA社人事に關わる給与計算などの業務はB社と複数のアウトソーサーに委託する企業があります。そのとき、アウトソーサー同士の連携が緊密に取れていないと、人事面での情報が入手できず、会計と税務の処理に齟齬が生じたり、社内の担当者が調整に追われてしまう。それでは、アウトソーシング導入で果たそうとした業務効率化や、コア業務に傾注して合理的・戦略的な事業展開を図るという本来の目的も果たせなくなります。広範な業務領域をカバーするワンストップサービスであれば、そのリスクも防げます」

**「先」を考える
経営者ほど関心が高い**

上場企業であっても、企業買収などで傘下に収めた子会社グループ間で、経理処理の基準が異なっていたり、専任者の知識や経験にかなりの格差がある場合がある。そこでも重要な意味を持つのは、緊密な連携による業務品質の平準化である。CSアカウンティングでは、親会社の要請で、経理事務や会計処理の精度向上、連結決算の早期化

のために、関連会社のアウトソーシングを受託することも多いという。

また、上場企業子会社でも、非上場の中堅企業であっても、今後の展望や事業展開を強く意識している経営トップほど、アウトソーシングへの関心が高いと語るのは、同社営業開発部グループリーダーの小日向博充氏だ。

「専任者の退職など人的リスクや、現在の経理システムに不安を抱えている場合、あるいは企業買収など積極的な事業展開を考えている場合も、バックオフィス業務を万全にしておきたいという切実感から、導入を検討されるケースが多いですね」

経理担当の人材に限られている場合、異動や離職が生じれば、新たな人材の確保や教育にコスト負担が伴う。関連会社が増えれば、経理の業務フローを統一

CSアカウンティング
営業開発部
グループリーダー
小日向博充氏



CSアカウンティング
専務取締役
公認会計士・税理士
中尾篤史氏



《導入事例》 幅広い業界・業種、企業規模に対応

対象会社	規模	受託業務内容	導入効果
旅行会社 (大手広告サービス会社の子会社)	資本金 3億円 従業員 500人	<ul style="list-style-type: none"> ◎月次決算 ◎決算および税務申告 ◎連結システム入力 ◎支払業務 ◎給与計算 ◎社会保険手続 ◎クラウドによる会計ソフトレンタル 	<ul style="list-style-type: none"> ★子会社の経理人員を他の子会社の営業部門に異動させるなど、グループ内の最適な人材配置戦略を可能に ★経理業務フローの見直しと整備
不動産賃貸会社 (上場不動産会社の子会社)	資本金 1億円 従業員 5人	<ul style="list-style-type: none"> ◎月次決算、物件原価管理 ◎決算および税務申告 ◎連結システム入力 ◎支払業務 	<ul style="list-style-type: none"> ★子会社の経理部機能をすべてアウトソースし、コストを削減 ★会計と税務の業務連携による連結決算の早期化
上場ITサービス事業会社	資本金 40億円 従業員 約100人	<ul style="list-style-type: none"> ◎会計士の現場派遣による業務フローの見直しと整備 ◎決算事前準備サポートおよび事後データの確認 ◎監査対応サポート ◎日常的な会計・税務に関する相談業務 	<ul style="list-style-type: none"> ★経理業務の見直し提案、運用面のフォローによる業務フローの大幅な改善 ★繁忙期の業務負荷が平準化され、経理業務の安定的運用が可能に ★決算の精度向上と早期化の実現

会計クラウドサービスの導入効果は大きい。しかも、「運用コストは独自システムの導入に比べて安価になるのが一般的」(小日向氏)

経理・会計業務の合理的な業務フローの確立。情報セキュリティの確保。そしてリーズナブルなシステム運用。これらを前提として、迅速、高精度のアウトソーシングが担保される。

「弊社は業務のスピードと共に、高品質のサービスの提供を使命としています。上場企業様であ

れば監査法人の監査を前提に、非上場の企業様であれば税務調査も念頭に、会計・税務の新制度に際した的確な判断ができる情報を早期にご提供する。お客様に寄り添う実務の遂行と迅速な情報提供が業務全体の品質につながるものと考えています」(中尾氏)

戦略経営に欠かせない、バックオフィス業務の効率化と、先を読む会計・税務情報の精度。アウトソーサーの果たす役割は今後ますます高まるはずだ。